

要旨

【目的】

臨床判断モデルを用いた対話による省察支援過程から、集中治療領域の新人看護師の臨床判断の現状を明らかにし、臨床判断能力育成のための教育支援の示唆を得ることである。

【方法】

新人看護師が臨床判断を行う場面を参加観察し、新人看護師の臨床判断について臨床判断モデルを用いた対話による省察支援を行い、内容を記述し分析した。省察支援後の新人看護師に対して、省察支援を受けて感じたことや考えたこと、臨床判断能力育成のための支援方法についてインタビューし、逐語録を分析した。

【結果】

期間は2018年8月～9月、対象はA病院心臓血管系集中治療室の新人看護師2名であった。新人看護師が、患者の血圧変動時、患者の疼痛発生時、患者の尿量増加時、患者の発熱時に臨床判断を行った8事例に対し、臨床判断モデルを用いて臨床判断の解釈（5事例）反応（2事例）行為中の省察（1事例）を省察支援した。新人看護師は、全事例で患者の異変に気づき、これまでの経験を活かし、患者の発熱時に状況に適した解釈ができ、患者の血圧変動時と発熱時に適切な反応ができた。そして、患者の血圧変動に対する未経験の状況、初めて気管チューブ抜去の患者を受け持つ、初めて心臓血管外科術直後患者を受け持つ、という状況で新たな解釈を学び、患者の血圧変動時の反応の判断、患者の多尿時の他者への依頼という初めての状況で新たな反応を学んでいた。さらに、行為中の省察で発熱患者の今後の予測を学び、行為後の省察で事例の経験から次の状況への臨床的な学びや自信を得ていた。インタビュー調査の結果、新人看護師が認識する、臨床判断モデルを用いた対話による省察支援の効果は、【臨床判断モデルを用いて自分の思考を系統立てて捉えることができる】【臨床判断モデルを用いて自分と他者の思考の違いを客観的にみられる】【臨床判断モデルを用いて状況を他者と共有できる】【臨床判断モデルを用いた省察が次の状況への臨床的な学びや自信につながる】【臨床判断モデルが他者との対話や自己省察や自己学習の道具となる】【対話が自分の思考を他者に伝える場となる】【対話が状況を整理できる場となる】【対話が自分の引き出しを広げる場となる】であった。

【結論】

新人看護師はこれまでの経験を活かし臨床判断を行い、初めての経験から新たな学びを得ていた。集中治療領域における新人看護師への、臨床判断モデルを用いた対話による省察支援が、臨床判断能力の育成支援につながることを示唆された。